

# 文化財保護センターだより

第10号

平成6年7月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒500 岐阜県岐阜市司町1(岐阜総合庁舎内)

TEL 0582-64-1111(代)  
FAX 0582-64-0343

●もくじ	発掘状況……………	4
今宿遺跡の畝状遺構……………	県下発掘報告会……………	6
発掘資料による民俗資料の補完……………	トピックス……………	7
平成6年度役職員名簿・事業計画…	センターだより……………	8



## いま じゆく うね じょう い こう 今宿遺跡の畝状遺構

平成5年12月より大垣市の今宿遺跡で発掘調査を実施しています。この遺跡は、古墳時代初頭（4世紀）から現代にいたる遺跡です。

上の写真は、中世の遺構面の発掘作業風景です。中央に見られる緑色土と黒色土で区画された畝状の遺構は、稲作に関する遺構と推定しています。緑色土は幅約40cm・黒色土は幅約95cmで、東西方向に約30m延びています。

# 発掘資料による民俗資料の補完



岐阜市立明德小学校長  
岐阜常民文化研究会主宰  
浅野 弘光

## 1 便槽の系譜を大幅修正

平成3年の春のことであった。揖斐郡藤橋村徳山の上開田村平遺跡から「糞」の跡を残した奇妙な穴が発掘されたので、見に来いとのお誘いを当時の西村課長から受けた。その瞬間、「岐阜県郷土資料研究協議会会報」(33号)にまとめた「揖斐川筋における厠の変遷」を思い出した。

当時は遺構としての厠に対する考古学の関心は薄く、「カワヤ」は側屋か川屋かなどという論争が「厠に関心のある専門家」によって取り沙汰される程度であった。そのため数年かけて、揖斐川流域を丹念に聞き歩き、「便槽の変遷の推定年代表」を試作として出し、朝日新聞夕刊文化欄に「浮かび出る生活文化の系譜」として紹介した。

系譜では、栗材や桤材が大量に伐採される以前のゆとりのない時代に赤土と石灰を混ぜ、穴に塗り付け、たたいて便槽を造る「タタキツボ」が、木製箱型の便槽以前の製法であると推定していた。

これを裏付けるように「真竹の育たない地域だし、杉材を買わんならんで、樽などない」という言葉を貴重な証言と信じて、系譜を作成した。

栗材や桤材が産業用材(枕木・建築・工芸)として需要が伸びると、「売った金で糞の付いた杉板の大樽を埋めて、本普請の便所を造った」という明治末年からの言い伝えが真実に聞こえたのであった。糞跡が発見される以前としては当然の声であった。

## 2 コプロスタノールの発見

発掘現場に着いてみると、明治以後、建物があったことが証明できない場所に「糞」の跡がしっ

かりと残っている穴があった。

「糞」は、樽の外側の赤土にめり込むように残っていた。樽の外側は樽の腐敗を防ぎ、人糞の漏水を防ぐために「赤土タタキツボ」と同じように固められていた。

間違いなく、「糞」をもつ便槽であった。その後、岐阜県公衆衛生検査センターの分析により、回虫、横川吸虫及び人間の食べたコレステロールが分解して出来るコプロスタノールが発出された。この結果、発掘地域の様子から「江戸時代以前の屋敷内にあった厠」と岐阜県文化財保護センターは位置付けた。(きずな第5号)

こうなると、先の「便槽の変遷の推定年代」は大幅に修正する必要が出てきた。「糞」を肩にした桶職人が徳山に出入りした年代を、村人の証言よりも300年前に移す必要があった。

事実としての「糞」の発掘とコプロスタノールの検出は、とかく不確実になりがちな民俗学の推定年代に確かさを与える貴重な発見であった。

## 3 発掘の偉大さ

「トイレ考古学元年」(佐原真氏、国立歴史民俗博物館)と言われた平成5年から、発掘における厠のもつ意義は「過去の宝をつめたタイムカプセル」だと評価され出した。

民間医療で駆虫薬といえば「サクロ」などが主であった。そのため、便槽の中にあつた葡萄、林檎、瓜、梅などの種子は、便槽がゴミ溜め同様に利用されたからだと判断されてきた。ところが、最近の研究成果により、これらの種子の表皮には駆虫薬の役割を持つ成分が含まれていることが分かり、過去の民間医療が再認識される結果となった。こうした例は数限りない。

民俗学は、考古学による過去の遺跡の細かな発掘と分析により、迷いの部分に光を与えられ、成長し始めたのである。岐阜県文化財保護センターの存在は、民俗文化の研究にとり救世主であり、偉大であった。改めて感謝しご発展をお祈りしたい。

■平成6年度役員・職員名簿 (平成6年6月現在)

●役員

会 長	梶原 拓 (岐阜県知事)
副 会 長	大宮 義章 (岐阜県教育長)
理 事 長	吉田 豊
副 理 事 長	廣田 照夫
参 与	島塚 定男
専務理事	山崎 春夫
理 事 事	浅野 勇 (岐阜県市長会会長)
理 事 事	荒井 正義 (岐阜県町村長会会長)
理 事 事	後藤左右吉 (岐阜県都市教育長会会長)
理 事 事	平野 敬 (岐阜県町村教育長会会長)
理 事 事	大野 政雄 (岐阜県文化財保護審議会会長)
理 事 事	高井 正文 (岐阜県総務部長)
理 事 事	国井 隆 (岐阜県農政部長)
理 事 事	葛城幸一郎 (岐阜県土木部長)
理 事 事	白木 昇 (岐阜県開発企業局長)
理 事 事	村木 光男 (岐阜県教育委員会教育次長)
理 事 事	本田 修也 (岐阜県教育委員会指導部長)
理 事 事	横山勢津男 (岐阜県博物館長)
監 事 事	永倉 八郎 (岐阜県出納長)
監 事 事	三村 洋史 (岐阜県教育委員会管理部長)

●職員

理 事 長	吉田 豊
副 理 事 長	廣田 照夫
参 与	島塚 定男
専務理事兼事務局長	山崎 春夫
総 務 課	課 長 平林 哲男
	主任 原田東支夫
	事務嘱託 岩手 正実・岩谷 美里
調 査 部	部 長 江木 洋治
第1課	課 長 北洞 勝臣
	課長補佐 中島 康夫・篠田 通弘
	飯沼 暢康・加藤 栄二
	学芸主事 小谷 和彦・松野 品信
	春日井 恒・鈴木 昇
	藤田 英博
第2課	課 長 小木曾文和
	課長補佐 市原 輝明
	学芸主事 各務 光洋・佐野 康雄
	千藤 克彦・小野木 学
第3課	課 長 武藤 貞昭
	課長補佐 川部 誠・安江 祥司
	学芸主事 長屋 幸二
調 査 員	大知 正枝
飛驒出張所	所 長 本永 義博
	課長補佐 上嶋 善治・谷口 和人
	調 査 員 野村 宗作
	事務補助 政井 美子

■平成6年度事業計画

事 業 名	原 因 者	調 査 地	遺 跡 名	時 代 等
徳山ダム水没地区内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	水資源開発公団 徳山ダム建設所	揖斐郡藤橋村 徳山地区	上原遺跡 寺屋敷遺跡 戸入村平遺跡 善賢寺・長吉 塚・上開田遺跡	縄文時代の集落跡 旧石器・縄文・中世寺院跡 縄文時代の集落跡 縄文時代遺物散布地 縄文時代の集落跡
東海北陸自動車道建設予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	日本道路公団 美濃工事事務所	郡上郡八幡町	西乙原・勝更・ 赤谷・勝更白山	縄文時代遺物散布地
	日本道路公団 白鳥工事事務所	郡上郡白鳥町	西ヶ洞遺跡 西ヶ洞古墳群	縄文時代の集落跡 古墳5基
国道156号改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査	建設省 岐阜国道 工事事務所	美濃市松森	下巾上遺跡 下巾上古墳	古墳～奈良時代の遺物散布地 古墳1基
V Rテクノジャパン建設工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査	岐阜県 土地開発公社	各務原市須衛町	船山北古墳群	古墳6基
ソフトピアジャパン建設工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査		大垣市今宿	今宿遺跡	弥生・古墳・中世 遺物散布地
岐阜環状線改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査	岐阜県土木部 岐阜土木事務所	岐阜市長良堀田	堀田城之内遺跡	縄文・古墳・中世遺物散布地
大垣環状線改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査	岐阜県土木部 大垣土木事務所	大垣市松町	荒尾南遺跡	弥生・古墳・中世遺物散布地
国道256号改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	岐阜県土木部 美濃土木事務所	武儀郡洞戸村 栗原	飛瀬・底津遺跡	縄文時代の集落跡
多治見白川線改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	岐阜県土木部 可茂土木事務所	可児市久々利	岡本山横穴墓	横穴墓2基
県道鼠餅古川線改良工事予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査・報告書作成	岐阜県土木部 古川土木事務所	吉城郡古川町	岡前遺跡	縄文時代遺物散布地
丹生川ダム水没予定地内 埋蔵文化財緊急発掘調査	岐阜県宮川上流 河川工事事務所	大野郡丹生川村 折敷地	牛垣内遺跡 西田遺跡	縄文時代遺物散布地 縄文時代集落跡

# 発掘状況

## ■県下11遺跡で調査開始

本センターでは、本年度の発掘調査を始めるにあたり、調査の安全と成功を願って、関係諸機関の出席をいただき、以下の7遺跡で調査始め式を実施しました。

荒尾南遺跡	(大垣市)	5月9日
上原・寺屋敷遺跡	(揖斐郡藤橋村)	5月9日
牛垣内・西田遺跡	(大野郡丹生川村)	5月12日
岡前遺跡	(吉城郡国府町)	6月15日
下市上遺跡	(美濃市)	6月16日

また、以下の4遺跡でも調査を開始しました。

今宿遺跡	(大垣市)	4月13日
岡本山横穴墓	(可児市)	5月6日
船山北古墳群	(各務原市)	5月16日
飛瀬遺跡	(武儀郡洞戸村)	5月16日



上原遺跡での調査始め式

## ■徳山埋蔵文化財発掘調査

揖斐郡藤橋村徳山地区で実施している徳山ダム建設に伴う水没予定地内の発掘調査は、今年度で9年目を迎えました。

これまでの調査で、縄文時代を中心に、東海・北陸・関西・信州の接点としての「徳山」を象徴する貴重な遺構・遺物を多数検出してきました。

### ◆上原遺跡

本遺跡は、旧徳山村本郷集落より約1.5km 揖斐川本流をさかのぼった右岸上位段丘に位置し、段

丘全面が遺跡だと考えられます。

平成2～5年度までの調査で、縄文時代の竪穴住居跡・土器棺墓・配石土壇・土坑などの遺構を検出しました。出土遺物も25万点に達し、縄文時代中期後半の集落跡の様子が判明しつつあります。

また、縄文時代早期および前期の土器や須恵器灰陶陶器も出土しており、古代の掘立柱建物跡も1軒検出しています。

今年度、調査面積5,675㎡の発掘調査を予定しており、遺構の広がりとともに遺跡の時期と性格の解明に努めたいと考えております。

### ◆寺屋敷遺跡

本遺跡は、旧徳山村本郷集落より約3km、揖斐川本流と磯谷の合流地点に突き出た尾根の先端に位置しています。古くより寺屋敷との伝承を有しており、二段の削平地となっていました。

平成5年度の調査では、平安時代の礎石建物跡、縄文時代の遺構・旧石器時代の遺物を検出しました。これにより、本遺跡が3時期にわたる遺跡であることが判明しました。

今年度、調査面積800㎡の発掘を予定しており遺構の広がりを確認したいと考えています。

### ■今宿遺跡発掘調査

ソフトピアジャパン建設事業に伴う今宿遺跡の発掘調査は、平成5年12月より開始しました。

本遺跡は、水の都と称される大垣市の東北部に位置し、17世紀以降は木曾三川下流部特有の輪中の中で発達してきた地域です。

調査は、輪中地域特有の水田より始めました。堀田と呼ばれるこの低湿地の水田は、堀潰れと呼ばれる深さ2mほどの堀と、堀潰れの土を上乗せした堀上げ田(耕作地)により構成されています。この形態は、悪水(たまり水)による稲の根腐りを防ぐことができます。輪中の低湿地で、先人の工夫したこの水田形態も、昭和40年代の耕地整理

により消滅し、現在はなくなっています。

昨年度の調査では、南北に走る水路とこれに直交する幅3.8mの堀潰れ11本と堀上げ田を検出しました。多くは明治21年の字絵図の通りに検出できましたが、絵図にはない堀潰れも数本確認できました。水路は堀潰れと連結し、その底面は堀潰れより浅く、排水を目的に構築されたと考えられます。また堀潰れと堀上げ田の境には柵が作られており、田の面が崩れるのを補強する工夫も検証することができました。

現在は、堀田面の下部層の中世と思われる面を調査しています。この面からは、12世紀以降中国から輸入された宋銭5枚と、山茶碗・かわらけの破片等が2,000点近く出土しました。また、各所から幅1～2m程度の短冊状の畝のような遺構も検出しています。この畝の土を分析した結果、稲や葉や茎に含まれ、そのまま地中に残されていたプラントオパールという物質が確認されました。この中世の面も、堀田形成以前の農耕遺跡と判明しました。

今後の発掘は、事前試掘で確認されている弥生時代後期から古墳時代前期(約1,600～1,700年前)と考えられる層の調査を予定しています。



今宿遺跡発掘調査風景

#### ■丹生川ダム関連埋蔵文化財発掘調査

宮川の支流、荒城川の最上流域に丹生川ダムの建設が予定されていますが、その水没地域を対象にした発掘調査が2年目を迎えました。水没予定

地は、大野郡丹生川村折敷地五味原地区です。

本年度は、昨年度に引き続いて行われる西田遺跡のほかに、新たに牛垣内遺跡を調査します。



牛垣内遺跡発掘調査風景

#### ◆牛垣内遺跡

本遺跡は、荒城川に流れ込む谷によって形成された扇状地上に立地します。遺跡の状況は、遺物を含んでいると思われる黒色土が比較的深く堆積しています。過去には、縄文時代中期から後期にかけての土器片が採集されています。

トレンチ掘りで、遺跡の広がりや土層を確認した後、現在、西方の一部を平面掘りで調査を進めています。出土遺物は、縄文時代後期から晩期にかけての土器、打製石斧、磨製石斧、石鏃、石皿などです。また、縄文時代早期の押型文土器片も出土しています。

今年度は、2,500㎡を調査する予定です。遺跡は、傾斜地にありますが、住居跡などの遺構の検出をめざしています。

#### ◆西田遺跡

本遺跡は、荒城川右岸の段丘上にあり、山裾に沿って約5,300㎡の広がりを持つ縄文時代の遺跡です。昨年度は南側の3,200㎡を調査しました。

調査の結果、縄文時代後・晩期の住居跡、縄文時代早期と思われる集石遺構などが検出され、縄文時代早期、後期を中心に約8万点を越す大量の遺物が出土しました。

今年度は、残りの2,100㎡を調査します。縄文時代早期や後期の遺跡の広がりを確認したいと考えています。

# 岐阜県下発掘調査報告会

岐阜県下で平成5年度に実施された発掘調査の報告会が、さる5月2日に岐阜総合庁舎において、岐阜県教育委員会の主催で開かれました。

当日は、県下各地の考古学関係者・一般の方など112名が参加され、スライドなどを用いた事例報告を熱心に記録される方も多く見られました。発表された各遺跡の概要は以下のようです。

## ◆「寺屋敷遺跡」揖斐郡藤橋村（旧徳山村）

（助岐阜県文化財保護センター 篠田通弘氏

「観音屋敷」「寺屋敷」などの地名が残されていた地点の発掘調査。伝承通り3間×3間の礎石建物跡と倒壊状況を推定できる鉄製角釘の分布を検出。平安時代の灰釉陶器等が出土。また、その下層より縄文時代早期末の土器片、さらに推定約2万年前のナイフ形石器出土。本年度も継続調査。

## ◆「御望遺跡」岐阜市黒野

岐阜市教育委員会 内堀信雄氏

平成3～5年度にかけて3地点で調査。縄文時代前期後葉・中期後葉・古墳時代前期・奈良時代の竪穴住居跡33軒を検出。縄文時代前期の遺構群は住居・屋外調理施設・墓域が有機的つながりを持って分布している様子が確認できた。

## ◆「宮塚遺跡」各務原市蘇原

各務原市埋蔵文化財調査センター 大熊茂弘氏

調査範囲を囲むような環状の大規模な溝を検出。北西部分では同心円状に2本。溝を渡る橋状部分等も確認。溝より弥生時代前期の遠賀川式土器等が出土。土地改良による削平で溝より内側の集落の存在は確認できなかった。しかし、環濠の可能性は否定できない。

## ◆「赤保木ボタ上5号古墳」高山市赤保木町

高山市教育委員会 田中 彰氏

長円礫を積み上げた石室側壁、板状割石を据え小礫を敷き詰めた床による竪穴式石室であること

が判明。この石室の北側に隣接して竪穴式石室構築以前の箱式石棺を確認。石棺上部は板状石材が二重に被せられ、石棺内部は赤色物が塗彩、保存状態は良好。範囲確認調査のため規模等は未調査。

## ◆「裏輪石橋遺跡」吉城郡国府町

国府町教育委員会 岩花秀明氏

古墳時代の住居跡21棟、集会場と思われる7×7mの住居跡、掘立柱建物2棟、および中世の井戸跡と掘立柱建物1棟を検出。住居跡のほとんどはカマドを持たず、イロリの位置やカマドの有無により3時期に分類できる。

## ◆「下切香ヶ洞古窯・矢戸上野2・3号窯他」可見市下切

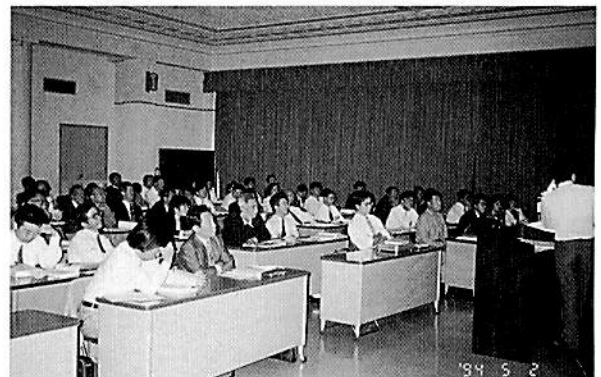
可見市教育委員会 長瀬治義氏

平安時代末頃に稼働したいわゆる山茶碗の窯跡。可見市南部より多治見市の丘陵にある何百もの古窯跡のうち、今回と同時期のものは少なく、窯を焼く場所を転々とした様子がわかる。矢戸上野2号窯は約3,500個の碗・皿等を焼いたと推定。同3号窯は未完窯。下切香ヶ洞古窯も同時期。

## ◆「西ヶ洞古墳群」郡上郡白鳥町

（助岐阜県文化財保護センター 川部 誠氏

5世紀末～6世紀の横穴式石室を採用していない古墳5基を検出。墳丘部はいずれも耕作により削平・流出。主体部は長軸1～2m短軸1～1.4mの隅丸長方形の墓壇。副葬品の直刀2本（101cm）と鉄鍔・刀子・須恵器・土師器等が出土。



## トピックス

## ■戸入村平遺跡出土石器の石材産地

現在、本センターでは、昭和63年度～平成元年度に県文化課の発掘した、揖斐郡藤橋村（旧徳山村）の戸入村平遺跡の整理作業を進めています。

廃村時には62戸の集落が営まれていたこの遺跡では、調査区（2,305㎡）より縄文時代中期～晩期（約5,000年前～2,300年前）の遺物が12万点出土しており、そのうち縄文時代の石器および石器を作った時の破片が9,500点あまり出土しました。これらのうち、石鏃・スクレイパーなど、鋭い刃を持つ石器の大部分は、チャートと呼ばれる石で作られています。この遺跡のある揖斐川上流域でも多く産出しています。しかし、少量ですが、岐阜県内では産出しない黒曜石（10点）や、揖斐川流域にはないサヌカイト類（全体の約2.5%）・ひすい製の玉（装飾品として用いた垂飾）1点も出土しています。

従来、県内の縄文遺跡などで出土している黒曜石の多くは長野県の和田峠から、サヌカイト類は奈良県の二上山からのものが多いと考えられてきました。しかし、福井・滋賀県境と接する徳山地区で出土する石は、別の産地の可能性も考えられます。福井県内（2ヵ所）に産するガラス質安山岩類を採集し、比較してみました。肉眼による観察では、違う岩石のように見えますが、それ以上の判断はできません。そこで、これらの岩石の産地を、京都大学原子炉実験所の藁科哲男氏に自然科学的分析によって、推定していただきました。

この産地分析は、蛍光X線分析により岩石に含まれる元素割合を求め、産地のわかっている岩石の元素割合と比較して産地を推定するものです。分析の結果、黒曜石は、霧が峰（長野県）・神津島（東京都）・柏峠（静岡県）と判定されました。サヌカイト類は、二上山（奈良県）・金山（香川県）と岐阜県下呂町から産する下呂石と判定されました。なお、福井県内2ヵ所の岩石と同じものと判定されたものはありませんでした。また、ひすいは新潟県糸魚川産と判定されました。

縄文時代の遺物には遠隔地と共通するものも含まれ、広い範囲で何らかの交流のあったことを示すとされてきました。戸入村平遺跡の場合も、遠く瀬戸内海を隔てた四国や伊豆半島の沖合にある神津島、また新潟県糸魚川などの石材と同じと考えられる石が確認できました。

奥深い山間部にある徳山の縄文遺跡を訪れた多くの方は、こんな不便な所にと疑問を持たれます。しかし、山々の尾根づたいに移動したと考えられる縄文人にとって、自然の恵みの多いこの地区は生活にふさわしい場であったようです。

今回、産地が確認された石は、人々と共に移動したのか、交易により伝えられたものか、疑問はまだ残ります。

なお、戸入村平遺跡の発掘調査報告書は、本年度刊行を予定しています。

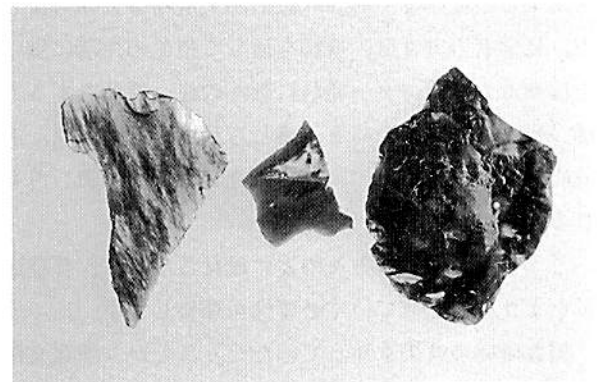


写真 左から霧ヶ峰・柏峠・神津島産と判定された黒曜石

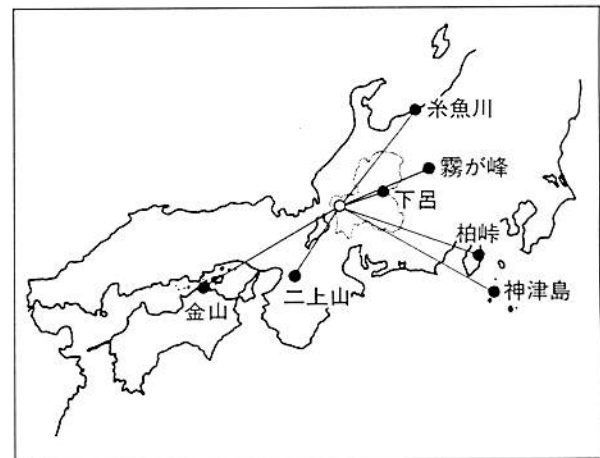


図 戸入村平遺跡で確認された石材の産地

# センターだより



(写真提供 岐阜新聞)

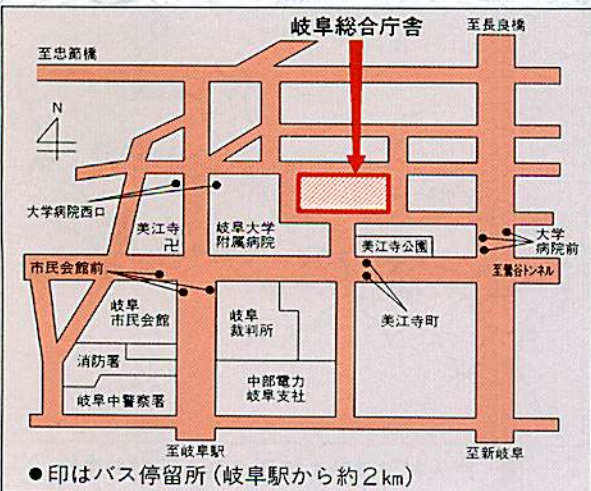
## ■ 出土遺物一般公開

5月9日～13日(金)までの5日間、センター本部において、出土遺物の一般公開を行いました。これは本部事務所を岐阜総合庁舎内に移転したことを記念して、センターの活動をより多くの方に理解していただくために催したものです。平日であるにもかかわらず、約500名の熱心な見学者がありました。

会場には、揖斐郡藤橋村戸入村平遺跡から出土した複雑な飾りがついた縄文時代中期の土器、多治見市元三ヶ根古墳から出土した鉄刀・耳飾り、高山陣屋跡から出土した玩具等、約500点の出土遺物を公開しました。見学者の方々は、遺物を通して祖先の生活に思いをはせる方、センター職員に数々の鋭い質問をする方等、皆さんの関心の高さが感じられました。また、常設的に展示を望む声、調査や研究等の情報を望む声も数多く聞かれました。

こうした見学者の方々の姿に触れるたびに、普及活動をより充実させていく必要性を痛感します。

調査研究の成果を知っていただくことが、埋蔵文化財保護に対する理解を深めることになると考え、今後も努力を続けていきたいと思えます。



## ●日誌

2. 2 愛知学院大教授大参氏、船山北古墳群等指導調査
- 26 各務原市教育委員会文化課渡辺氏、尾崎遺跡指導調査
3. 3 古川町飛騨山樵館学芸員柏木氏・岐阜県博物館大塚氏来所
- 8 文化庁文化財保護部文化財調査官西田氏来所
- 15 京都大学文学部助手高橋氏、尾崎遺跡指導調査
- 18 大垣市今宿遺跡・洞戸村飛瀬遺跡調査納め
- 19 各務原市船山北古墳群調査納め
- 23 理事会開催
- 25 高山市教育長石原氏、飛騨出張所来訪
4. 1 本部事務所、岐阜市司町岐阜総合庁舎に移転
- 13 大垣市今宿遺跡調査再開
- 21 大垣北高校教諭船戸氏、今宿遺跡視察
5. 2 「県下発掘調査報告会」岐阜総合庁舎にて開催、参加112名
- 6 可見市岡本山横穴墓調査開始
- 9 大垣市荒尾南遺跡・藤橋村上原遺跡にて調査始め式開催
- 9～13 本部整理室にて「出土遺物一般公開」開催、見学500余名
- 11 藤橋村老人クラブ37名、徳山地区山手宮前遺跡見学
- 12 岐阜市立京町小学校児童64名、「出土遺物一般公開」見学
- 丹生川村牛垣内・西田遺跡、調査始め式開催
- 13 県文化財保護審議会巡視員40名「出土遺物一般公開」見学
- 可見市議会議員高木氏、岡本山横穴墓視察
- 16 各務原市船山北古墳群・洞戸村飛瀬遺跡調査再開
- 可見市教育委員会長瀬氏、岡本山横穴墓視察
- 17 県歴史資料館伊藤氏他2名来所
- 18 大垣市教育委員会文化振興課中井氏他2名、今宿遺跡視察
- 25 文化庁記念物課主任文化財調査官岡村氏来所
- 31 大垣市教育委員会文化振興課中井氏、穂積整理所来訪
- 丹生川村教育委員会教育長福寿氏他2名、牛垣内遺跡視察
6. 4 愛知学院大教授大参氏、岡本山横穴墓・荒尾南遺跡指導調査
- 6 滋賀県米原町教育委員会中井氏、荒尾南・今宿遺跡等視察
- 7 多治見市教育委員会山内氏、穂積整理所来訪
- 14 大野郡教育委員40名、牛垣内遺跡視察
- 15 国府町岡前遺跡にて調査始め式開催
- 16 美濃市下市上遺跡にて調査始め式開催
- 17 理事会開催

## ●タイムスリップ探検隊員募集●

岐阜市の「堀田城之内遺跡」で発掘体験をしよう

日 時 平成6年8月10日(休)雨天順延

対 象 岐阜県内の小学5・6年生と保護者

定 員 50名

締め切り 7月15日(金)まで

申し込み 住所・電話・氏名・学校名・学年を明記し  
葉書で、岐阜県文化財保護センターへ

## ■編集後記

浅野先生には、お忙しい中にもかかわらず快く原稿をお寄せいただきました。先生は、「厠考 基層文化の崩壊」(教育出版文化協会)など厠関係の論文も多く発表してみえます。民俗学研究者の立場から発掘調査の意義を示唆いただき、ありがとうございました。

平成6年4月に本部事務所を岐阜総合庁舎へ移転して3ヶ月たち、本年度の事業も軌道にのってきました。また、移転を契機に開催しました「出土遺物一般公開」には、大勢の考古学ファンの方に見学していただきました。炎天下での発掘調査、膨大な量の出土遺物の整理にたずさわっている当センター関係者には、何よりの励みとなりました。